

群 教 セ	G11 - 02
	平 16.220集

夢を叶えようとする気持ちをはぐくむ 指導の工夫

- 体験的学習と将来への夢の現実を重ね合わせて -

特別研修員 菅 智子（高崎市立高南中学校）

《研究の概要》

本研究は、地域との連携によって行われる体験的な学習を通して、夢を叶えようとする気持ちを持つ生徒を育成する研究である。コスモスロード造りという体験的な学習に願いを込めて取り組み、願いが叶うまでの過程と自分の夢が叶うまでの生き方をワークシートを通して重ね合わせる事で、周囲からの支援を理解し、それにこたえるためにも自分の夢をあきらめずに叶えていこうとする生徒が育成できるということを明らかにした。

【キーワード】 進路指導 中学校 体験的学習 連携 ワークシート

主題設定の理由

進路指導の目的の一つは、生徒一人一人が自分の生き方について考え、自己の特性を理解し、将来の夢に向かって自らの意志と責任で自己実現を図っていくことができる生徒を育成することであると考ええる。

本校の一・二年生にアンケート調査を実施したところ、将来の夢を持っている生徒は一年生では81%であったにもかかわらず、二年生では69%であった。なぜ夢を持っていないのかという質問には「成績が悪いから」「なりたいものはあるけど無理だから」などと答えており、夢を叶えるために努力することをあきらめてしまっている生徒が多かった。そこで、中学一年生の進路指導では、今持っている夢を大切に、あきらめずに努力していく気持ちを育むことが大切なのではないかと考えた。また、中学生の発達段階は心身共に急激に発達する時期であることから、具体的な体験の中で実際に人や物と関わり合い自分の心で感動したり驚いたりしながら考えを深めていくことで、実際の生活や社会のあり方を実感でき、問題解決や自己実現に向けて自分自身を成長させていくことができるのではないかと考えた。

そこで、一年生の総合的な学習の時間の「コスモスロード造り」という体験的な学習を通して、地域の方に指導・援助していただきながら各自が願いを持って取り組み、願いを叶えるまでの様々な作業の過程と自分の夢を叶えるまでの生き方を重ね合わせて考えていくことで、生徒一人一人にあきらめずに夢を叶えていこうという気持ちをはぐくむことが出来ると考え本主題を設定した。

研究のねらい

地域との連携で行われる「コスモスロード造り」という体験的な学習を通して、「きれいな花を咲かせよう」という願いが叶うまでの様々な作業の過程と将来の自分の夢が叶うまでの生き方を重ね合わせて考えさせる事で、周囲からの支えや努力することの大切さに気付き、自分の夢をあきらめずに叶えようという気持ちを持つ生徒が育成できることを明らかにする。

研究の見通し

1 家庭において、自分の生い立ちを親にインタビューし、ワークシート「私の成長日記」に書き留めていくことによって、自分の成長には家族の愛情や願い、周囲の方々の支援が重要であることに気付くことができるであろう。

2 総合的な学習の時間に行われる体験的な学習「コスモスロード造り」の活動を通して、花を咲かせたいという自分の願いと家族の願いを重ね合わせて取り組むことで、様々な作業を通して、願いを叶えるためには周囲の協力・援助が必要であることや、あきらめずに努力してこそ喜びが得られ、その喜びはみんなと共有できることに気付くことができるであろう。

3 体験的な学習での願いが叶うまでの過程と自分の夢を叶えるまでの生き方を重ね合わせて考えたり、『北島康介選手』の夢を叶えるまでの生き方を学習することによって、自分も努力をして夢を叶えていこうという気持ちがはぐくまれ、願いを叶えるための生き方を考えることができるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「夢を叶える気持ち」とは

生徒は少なからず夢を持って中学校に入学し、自分の将来の姿を思い描いている。しかし、中学生の時期は夢を持っていても、年を追う毎に自分本位の考えに固執したり、困難なことがあるとあきらめてしまったりすることが多く見られる。そこで、今まではただ単に「になれたらいいな」と考えていたものを、「になるために頑張ろう」「になるにはどうしたらいいか」と考えられるようになることが夢を叶えるための第一歩ではないかと考えた。

見通し1では親や周囲の方々が愛情を込めて大切に育ててくれた事に気付かせ、見通し2では親の自分に対する願いと「コスモスロードを造る」という体験的な活動での自分の願いを重ね合わせ、自分の願いが叶うまでの様々な作業や家族や周囲の方々の助けが必要であること、また、願いが成就したときの喜びはあきらめずに努力したからこそ得ることができ、この喜びは家族や周囲の方々と共有できることなどに気付かせることで、夢をあきらめずに叶えていこうという気持ちをはぐくむことができると考えた。

(2) 「地域との連携」と「ワークシートの活用」について

「コスモスロード造り」の活動は地域の方に指導・援助して頂きながらコスモスを種から育て、サイクリングロードに移植し、開花させ、コスモスロードを完成させるというものである。家族や地域の方々には、この活動の趣旨や学習内容、取り組みの様子、進路指導に関する学習内容、アンケート結果などを学年通信等で伝え、理解や協力を呼びかけた。

見通し1では、家族に協力して頂きながら自分の成長を振り返り、家族が愛情を込めて育ててくれたことや、家族以外にもたくさんの方々にお世話になって成長してきた自分に気付けるようにした。この時ワークシート「私の成長日記」を活用した。また、見通し2では、地域の方に直接指導して頂くだけでなく、生徒達の気付かない所でも市役所の方や地域の方などたくさんの方々に協力して頂くことができた。このことはその都度生徒に伝え、感じた事をワークシート「コスモスの成長日記」に書き留めておくよう指導した。見通し3では、ワークシート「私のコスモス日記」の願いが叶うまでの作業や地域の方々の助けを記入した項目の下

に自分の夢が叶うまでの過程を記入できるようにし、重ね合わせて考え易いように工夫した。

(3) 「重ね合わせる」とは

重ね合わせる場面は二つある。一つは自分を育てる親の願いとコスモスに対する自分の願いを重ね合わせることである。具体的には、自分の成長の様子を家族にインタビューすることで、親が自分に願いをこめて大切に育ててくれたことに気付く。そこで、親から自分が受けてきたように、自分も願いを込めて体験的学習に取り組んでいくことである。もう一つは、願いを叶える過程と夢を叶える生き方を重ね合わせる事である。体験的学習を通して、願いが叶うまでの家族や周囲の方々の協力・援助やあきらめずに努力を続けることで願いが叶い喜びを得られること。その喜びは家族や周囲の方々と共有できることなどを実感する。そこで、自分の人生において願いが叶うことは夢が叶うことであることを導き出し、願いを叶える過程と夢を叶える生き方を重ね合わせることができると考える。また、この体験だけでは「自分の努力」の必要性に目を向ける要素が足りないため、『北島康介選手』の夢を叶えた生き方を学習することによって、夢を叶えるためには自分の努力が大切であることを改めて実感し、あきらめずに自分の夢を叶えていこうという気持ちがはぐくまれると考えた。

2 全体構想



実践の概要及び結果と考察

検証にあたっては、抽出生徒(A子)のワークシートおよびアンケートの記述の結果を中心にを行う。A子の夢はまだはっきりと決まっていない。

(1)自分は、家族の愛情や様々な方の援助や支えがあって成長できたことに気付くことができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

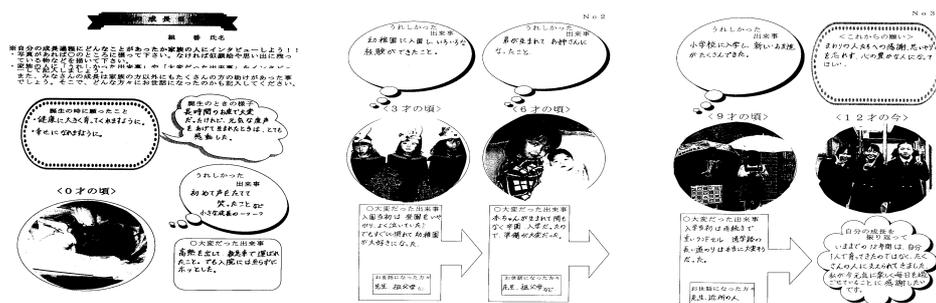
まず、進路指導に関する学習の内容を学年通信等で家庭に伝え、理解や協力を呼びかけた上で、自分の成長の様子を家族にインタビューしてワークシート「私の成長日記」に書き留めさせた。これによって、生徒は、家族やたくさんの方々を支えられ、助けられて成長できた自分

に気付くことができるようにした。

イ 結果と考察

自分の成長を振り返ったA子は「私の成長日記」(資料1)で、「今までの12年間は自分一人で育ってきたのではなくてたくさんの人に支えられてきました。私が今元気に楽しく毎日を過ごせていることに感謝したいです。」という感想をあげていた。他の生徒の記述の中にも同様に親や数位の方々に感謝の気持ちを示す内容が見られたことから、自分の成長を振り返ることによって家族や周囲の方々の願いや愛情、支援などに気付くことができたといえる。

資料1 A子の「私の成長日記」



(2) 願いを叶えるためには周囲の協力・援助が必要であることや、あきらめずに努力することで喜びを得ることができ、喜びはみんなで共有できるということに気付くことができたか。

(見通し2)

ア 実践の概要

体験的学習に入る前に「私の成長日記」を振り返らせ、コスモスにとって親は自分であることを確認させ、コスモスに願いを込めて大切に育てていくよう指導した。「コスモスの成長日記」には、コスモスの成長の様子や作業、地域の方から助けて頂いたことなどを感想を交えてその都度書き留めさせた。また、学年通信でコスモスロードが完成したことを知らせ、家族の方に感想を寄せていただき、生徒に提示した。

イ 結果と考察

A子は活動への決意(資料2)で、親が自分に注いでくれたように、自分もコスモスに愛情を注いでいこうという気持ちを記述していることから、自分がコスモスの親となり、コスモスに願いを込めて大切に育てていこうという気持ちを持って活動を始めたことがわかる。

コスモスの成長の様子や自分の感想は、作業を行った時や気付いたことがあった時に「コスモスの成長日記」に記入していった。また自分が作業しない時でも地域の方が水やりをしてくれたり、市役所の方が草刈りをしてくれたりしていることなどを生徒に伝えることより、自分の知らないところでも応援してくれる人がいることに気付き、途中であきらめずに願いを叶えるために頑張ろうという気持ちが育まれた。(資料4)また、コスモスロードの完成を学年通信で知らせ、家族の方々に感想を呼びかけたところ、資料3のような感想が寄せられ、これを知ることにより生徒達も「自分達だけでなくたくさんの人に喜んでもらえて、コスモスを育てて良かった。」「私達が一生懸命に育てたコスモスを見て、みんなが喜んでくれることを聞いて嬉しくなりました。」など、自分の喜びをみんなと一緒に感じるということができたことに気付くことができたと同時に、改めて途中であきらめずに努力し続けることの大切さを実感できたようである。

資料2 A子の取り組みへの決意

私をここまでたくさん愛情を注いで親が育ててくれたように、コスモスを育てる私も同じようにたくさん愛情を注いで元気に育ててほしいと思います。

資料3 家族や地域の方の声

- ・皆さんが一生懸命お世話をしてくれおかげで気持ちよくサイクリングロードを通ることができます。
- ・水やり草むしりなど大変だったと思いますがおかげでいいコスモスの花が見られて嬉しく思っています。ありがとうございます。

えるのための具体的な生き方を考えることができた。

A子は夢を叶える気持ちを資料5のように記述していた。他の生徒の記述にも「私の夢はまだ決まらなかったけど、コスモスを見て勇気がわいてきた。間引かれるコスモス、サイクリングロードで成長するコスモスもあったけど、みんな精一杯頑張っていた。それがきっと夢に向かう自分を励ましてくれると思う。」「コスモスを育てる中でやったことは、自分の将来の道と似ていたのでびっくりしました。コスモスを育てる中でやる『間引き』や『苗植え』は高校や努力や受験勉強と同じで、間引きは高校や大学受験、未来の夢に向けての努力。私も大人になったら、コスモスの満開と同じ『成功する』と思って頑張ればできるのだと思いました。」などの記述が見られ、これらの内容から願いを叶える過程と自分の夢を叶える生き方を重ね合わせて考える事が出来たことや自分の夢を叶えていこうという気持ちがはぐくまれたことがわかる。また、「コスモスロードを体験して自分の夢ができた。」という生徒や「中学では2年生の後半から3年生までに勉強すればいいかなと思ったけれど、間引きや苗植えの間で頑張ってる時は、1年生からきちんとやんなくっちゃなあと思いました。」「私は時々、あーこんなに勉強が出来ないやっぱり将来違う夢にしくっちゃと思った時もあったけど、最後まであきらめずに頑張れば出来ると思いました」というように、努力することの大切さを改めて実感し、今の目標を見つけ頑張っていこうという気持ちがはぐくまれた生徒もいた。以上のことから、願いが叶うまでの過程と自分の夢が叶うまでの生き方を重ね合わせて考えることで、自分の夢をあきらめずに叶えていこうとする生徒が育成できたといえる。

資料5 A子の
夢を叶える気持ち

種を自分の手でまいたとき、私にはさまざまな願いがありました。「これで元気でコスモスに育ちますように☆」
「雨の日も風の日にこたえずに頑張る。(ほい☆)」
ついにコスモスロードが満開になったときはまるで自分のことのようにうれしかったです。しかしここまでには私達だけの力だけではなく、周囲の人々の協力もたくさんありました。私達がコスモスの親。となって暑い中一生懸命頑張ったからだと思います。私は英語関係の仕事に就いてイギリスへ行くという夢があります。それを実現させるために、どんなことがあっても忘れずに、まるでコスモスのように力強く生きていきたいです。コスモスロードが完成すること。「あきらめない」という気持ち。それは家族や周囲の協力が得られるというのを常に忘れずに、(笑)自分に自信を持って生きていきたいです。実現した先生に報告するので行ってみよう☆ 再掲中 イギリス!!

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

体験的学習を通して、周囲との関わりや願いが叶ったときの喜びの共有に気付けた生徒達は、みんなが喜んでくれることで自分の喜びも増すということに発展して考えることができた。また、自分の夢を叶えるための生き方を考える段階で夢を叶えた北島康介選手の人生を学習する事で、自分の夢を叶えるには家族や周囲の方々の理解や援助が必要であるが、これは自分が努力することで得ることができるということも合わせて考えることができたようである。これらのことから、自分の夢をあきらめずに叶えていこうという気持ちを持つ生徒を育成することができたと考える。

2 今後の課題

家族の願いやたくさんの方々にお世話になったことへの気付きから、体験的学習への移行の場面での言葉かけが十分ではなかったため、今後は一人一人がしっかりと自分の成長を振り返られるような時間をとり、より適切な支援を行える方策を探していきたい。また、本活動をグループで行ったことは、友達の協力や見えないところでの助けに気付くためには大変有効であったが、作業に対しての取り組みには個々にばらつきが見られた。これに関しては、一人一人の活動意識を高めると共に、グループ活動を充実させる支援を行っていく必要があると考える。

<参考文献>

- ・杉田儀昨 著 『実践学級活動資料 資料編』 暁教育図書
- ・杉田儀昨 著 『実践学級活動資料 実践編』 暁教育図書
- ・平井伯昌 著 『世界でただ一人の君へ 新人類北島康介の育て方』 幻冬社(2004)